

2022 年度 JCulP Summer Session アンケート結果

<SOAS, University of London>

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- ・ ロンドンの芸術や文学についてのコースを取りました。授業内容は、おもにロンドン内の美術館・博物館を観光し、芸術品を分析しレポートやディスカッションなどで発表するというものでした。最初の3週間のコースでは大人数での授業、後半のコースでは少人数の授業と、両方の授業形態を受けられました。どちらのコースも先生方のクオリティが非常に高かったため、人数関係なく勉強になりました。授業レベルは、私にとっては授業を理解することや、課題をこなすことに関しては全く問題ありませんでした。より高い英語力を求める余裕があったため、とても良かったです。クラスメイトの構成については、日本人の生徒も比較的多かったですが、全体的なレベルが非常に高く日常的にみんな英語を話すようにしていました。
- ・ Block1 は日本人が私一人だったため英語を学ぶにしても異文化理解の観点からでもとても良い環境でした。また授業形態もディスカッションを中心としたものだったので様々な人と交流を深めることが出来ました。

留学生活全般について

（宿舍・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- ・ 寮については、正直良いとは言いがたかったです。部屋の広さ、部屋の温度、特に浴室の設備なども快適とは言えませんでした。ただ、Wifi の接続は非常に良かったと思います。ロンドンの気候は、今年は異常と言われるほどに暑かったです。最後の週だけ、雨が降りました。留学経験がなかったため、海外の治安・交通に関して非常に警戒心を抱いていましたが、イメージしていたほど悪くはなかったです。
- ・ 寮は水回りが少し汚かったですが、部屋は広くフロントの方も気さくでトラブルがあっても迅速に対応して下さいました。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ 語学に関しては、日本で勉強していて気が付くことができなかつたより高度な英語の使い方・実用的な英語を学ぶことができたため、その英語力を維持できるようネイティブと会話したりすることを意識したいです。また、海外の方と会話をするにあたって世界で何が起きているのかを知ること、自国についてを知ることの大切さを知ったため、ニュースを定期的に見ることや日本の歴史や文化などを学び直したいと思います。
- ・ 海外で一人で過ごすのは私にとっては初めての経験でしたが、やってみたことが無いものでも挑戦すれば意外と成し遂げられることが分かったのでそのチャレンジ精神は忘れずにしていきたいです。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

（留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど）

- ・ 留学は人を変えるとよく言います。確かに環境が違えば、変わることも増えるでしょうが本質的に変わるには自分が変わらなければならないと思われました。寮生活も大学生活も、自分の力で切り抜けるために人に聞いたりする勇気を出すことなどもその一つです。そのような変化は日本に帰ってからも生きると思うので、たくさんこまめに悩んでください！笑。というのがアドバイスです！
- ・ 留学の際の手続きがあまりスムーズに進まないことがあります。現地の方もその旨をきちんと伝えれば丁寧に対応してくださるので安心してください。また短期留学のため、自分がやりたいと思ったことはあまり先送りせず行った方がいいです。貴重で思い出深いものとなると思います。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- 私はメディアとアメリカ文化の二つの授業を取りました。どちらも ESL 科目だったこともあり、授業のレベルは JCulP の授業より易しく感じました。私はそれでもその二つの授業を気に入ったため最後まで受講しましたが、授業のレベルが合わなかったり学びたいこととずれがあったりした場合は、授業を受け始めた後でも変更できるシステムになっているそうです。クラスメイトの構成としては、ほとんどが中国人、韓国人、日本人などのアジア圏からの留学生でしたが、フランス人やドイツ人の子ども何人かクラスにいたため、ディスカッションなどもとても面白かったです。課題の量も JCulP で出される量に比べるとかなり少なかったので負担になることも無く友達と遊んだり観光したりすることにたくさん時間を割くことができました。ただ、早稲田でオンデマンド授業をとっていると、パークレーで出た課題と早稲田からの課題や授業の視聴締め切りに追われてかなり忙しくなるので気をつけてください。特にパークレーの留学期間はオンデマンド授業の最終レポートや最終テストの時期と被っているので計画的に勉強を進めないといけません（私は時差で時間感覚がバグって何回かオンデマンド授業を飛ばし、危うく落単しかけました）

留学生生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- 私は留学生の多くが暮らす International House に滞在しました。たくさんの国から留学生が来ていましたが、特に多かったのは日本人、ドイツ人、フランス人、中国人、韓国人でした。International House はたくさんある寮の中でも食事が特に美味しいことで有名で、実際バイキング形式の食事は選べる種類も多く美味しかったです。寮の費用に含まれている食事券の数は留学期間に対して足りないですが、朝食や軽食用のパンや果物の持ち出しが一部許可されていて毎食食堂で食べなくても食事を賄えることや、友達などと外で食べる機会が多いこともあり、足りなくなることはないと思います。実際私も最後には食事券をかなり余らせてしまいました。寮の部屋は一人部屋か二人部屋を選択でき、私は二人部屋を選びました。しかしコロナの影響で留学生の数が少なかったからルームメイトはおらず、一人で二人部屋を使っていました。部屋の広さは一人部屋も二人部屋もほぼ変わらず、二人で使うにはかなり窮屈な広さであるため、個人的には一人部屋を選ぶことをお勧めします。部屋にエアコンは無いですが、ヒーターが設置されていました。カリフォルニアの夏はかなり涼しいためエアコンなしでも暑さを感じることはなく、むしろ夜はヒーターをつけないと寒いくらいでした。部屋にベッドはあるものの、シーツや枕、布団は用意されていません。寮の近くのお店で枕とシーツは売っていたもののブランケットは売ってなかったため、留学期間は大きめのバスタオルをブランケット代わりにして気を紛らわせて寝ていました。どうしても必要なら持っていくことをおすすめします。寮の設備としては、トイレやシャワーは共用、自動販売機あり、自由に使える電子レンジ・電気ポット・製氷機あり、かなり強い Wi-Fi あり、冷蔵庫はお金を払えば各部屋に貸出可能、24 時間利用可能な図書室ありとかなり快適でした。また、寮にコインランドリーがあり洗濯が可能です。洗濯機はクレジットカード決済しか使えなかったためカードは必須です。気候に関しては、東京の夏と比べるとかなり涼しく、半袖だと寒くて現地で何枚か厚手のパーカーを買ったほどでした。周りの学生もほとんどがトレーナーやパーカーで過ごしていたので、いわゆる夏服ばかりを持っていくと困るかもしれません。また、一ヶ月半の滞在中天気の良い日は 1 日もなく毎日晴れていたため天気への心配はほぼ必要ないと思います。交通に関しては、カリフォルニア大学の学生証があれば大学周辺のバスを無料で利用することができたのであまり困りませんでした。治安については、Berkeley はかなり治安が良く、夜遅くに散歩できない限り怖い思いをすることはほぼないと思います。余暇は友達と出かけたり、観光を楽しんだりしていました。寮の近くに留学生が集まるバーがあり、多くの留学生たちはそこで交友関係を広げていたため、年齢の関係でバーに行けなかった私は授業以外の友達を作るのに少し苦労しました。しかし、International House には Coffee Hour などたくさんの寮内交流イベントがあり、いろいろな国から来た留学生と友達になることができると思います。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- Summer Session はたった一ヶ月半の短期だということもあり、やはり語学力が特別伸びたような実感はありませんでした。しかし、留学の中で確実に学ぶことができたのは、度胸と生きた英語でした。留学先では全てが初めての連続です。バスや電車に乗るときやお店で注文をするときなどに作法がわからないのは当たり前でした。そんな時にわからないと素直に人に伝えて教えてもらうこと、助けてもらうことができるようになったのは一つ大きな成長だったと思います。今までだったら絶対にしなかった一人での観光や知らない店への入店、初対面の留学生に自分から話しかけに行くことなどができる度胸はかなり身についたのではないかと思います。この力はこれからの大学生活や社会人になってからも、さまざまなことにチャレンジしていく中でやる前から諦めたりびびったりせずに挑戦していくことに活か

していけると思います。生きた英語は、今まで海外経験や留学経験がなく教科書で学んだような英語ばかり使っていた私にとってとても良い学びだったと思います。留学生の友達と話している時のスラングや口語表現、チャットで会話するときの略語や絵文字の使い方など、教科書では絶対に勉強できないような実用的な英語にたくさん触れて少しは吸収することができたと思います。これからの秋学期から一緒に勉強する留学生の子たちやその他の外国人の方との交流の際にこのような砕けた英語が使えると、より会話を楽しんだり親しくなれたりすると思います。今後の人生での異文化交流の際にこの留学で学んだことが活かしていけると良いと思います。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

(留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど)

- ・ 出願やビザの手続きは早めにとすること、服は秋服ぐらいのイメージ、クレジットカードは絶対に必要、水筒があると便利かも（食堂のドリンクバーからジュースとかコーヒーの持ち出し可だし大学内のウォーターサーバーで簡単に水入れられるし飲み物は買うとめっちゃくちゃ高いので）、首から下げたり服にフックでつけられたりするパスケースやカード入れがあった方がいい（寮や部屋に入る時に必ずカードキーや学生証が必要になるから携帯してないと詰む）、メイク落としシートあったら便利だと思う（部屋から洗面所までめっちゃくちゃ遠くてこれ持って行かなかったこと後悔した）、留学生同士連絡手段大体インスタだからインストールしてアカウント作っておくべき、学校のマスコットの熊のぬいぐるみめっちゃくちゃ可愛いから買って欲しい、あとは楽しむだけです！！！！！！がんばれ！！！！！！！！

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- Lower Division の 4 units の授業 3 つ取りました。課題の量はそこまで多くありませんでした。しかし授業三つあるので、少しは忙しいです。
- 学校のシラバスには授業のレベルが細かく書いてありますが授業自体についての詳細はその従業は選択してから出ないと閲覧することが出来ないの、いろいろな情報を確認してから慎重に選択した方がいいと思います。1~150 のレベルの中で私は 75 のレベルの授業を受けましたが、授業態度と課題をそつなくしていれば落ちることはないです。難しさで言えば JCulP の授業と同じくらい、または少し下くらいです。JCulP の 1 年生冬クォーターの必修の方が難しかった印象にあります。（あくまで私たちの時の授業と比べてです）
- 私は対面で ESL の film の授業と LGBTQ の授業、オンラインでアニメの授業を取りました。film の授業は ESL ということもありやりやすいレベルで教授とゆっくり進めてくださいました。また、film についてだけでなく文法やアメリカの文化まで幅広く教えてくださったのでとてもいい授業だったと思います。生徒は中国、香港、日本の方々だけで、人数は 10 人ほどでした。
- 授業のレベルは普段 JCulP で受けているものとあまり変わらないが、課題の量がとても多かった。音楽や演劇など、普段学ぶことのない内容の授業を選択したので、とても面白かった。

留学生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- LA の気候は意外と寒いので毛布とかブランケットを持っていったほうがいいと思います。寮のトイレとシャワールームはフロア共有なので少し汚かったです。
- 宿舎は 3 つの寮から選ぶ形となっていますが 2 年以内にできた寮以外エアコンがついていなく、設備が古い状態だったので一番新しい寮を選択することをお勧めします。基本的に他大勢の方と共同生活をすることとなるので、皆さんが快適に過ごすためのルールなどはありますが、あまり他の人と接触する機会がないので一人で行動しても何ら問題ないと思います。気候は湿気はあまりなく、18~25 度を前後しているような形なので日本より快適ですが、夜は山の上なので一気に気温が下がります。室内でも寒いと感じるほどなので何枚か羽織を持っていくことを推奨します。私はホームページが開かなくなったのでサポートデスクを活用しましたが、スタッフの方とても親切にそして的確に対処していただいたので、授業前に間に合わせる事が出来ました。緊急の場合は直接サポートデスクの棟に行ってください。
- 私は 1 番安い Rieber Hall にしましたが、部屋は机とベッド、収納の棚、ゴミ箱以外何もないので少し不便でした。なので私は近くに住んでいる知り合いにクーラーボックスやケトルを借りていました。Wi-Fi は学校のもので使えるのですがログインがいちいち必要なので少し面倒でした。食事は寮のビュッフェか大学内にあるチェーン店で食べていましたが日替わりでメニューが変わったりしていたので美味しかったです。気候は暑すぎず寒すぎずで本当に過ごしやすかったです！上着を持っていくことをお勧めします。交通は uber か電車、バスか徒歩でした。徒歩は近くの Target までが限界だったので近場なら Tap カード作って公共交通機関で行く方がお得だと思います！週末は近場の観光スポットをひたすら回っていました。
- 宿舎:全体的に設備は整っていたが、シャワーやトイレなどの共有スペースの使い方は汚かった。また、部屋に冷蔵庫がないため、食べ物や飲み物をあまり保存できずに困った。気候:気温は高いが、日本のように多湿と言うよりは日差しがとても強く、サングラスが欠かせなかった。夜はかなり冷え込むので長袖の服や上着を持って行った方がいい。治安:昼間は 1 人で出かけることも出来るが、日没前には必ず帰るようにしていた。交通:バスは時間通りに来ないので余裕を持って計画を立てた方がいい。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- 英語力とコミュニケーション力を今後の授業や仕事場で活用できればと思います。
- 今回の Summer session で私は様々な方に会い、いろいろな文化について触れることが出来ました。同年代の方だけではなく UCLA 生の先輩や OB などにもサークルに参加することによっていろいろな人と話しすることができ、また一つ自分の見解が広がりました。そして UCLA があるアメリカの文化についても授業内だけでなく、授業以外の時間を使って教会やセミナーなど色々な場所に行き、沢山の人の意見を聞いて、大いに学ぶことが出来ました。また私も日本文化についてたくさんの人に話、広めることが出来てとても嬉しかったです。今回のことを生かし、様々な方から聞いた他国の文化のいいところを日本文化と融合させ、日本文化を皆さんに伝えてゆく上で、“広め方”に十分に注意していきたいです。

- ・ 今回のサマーセッションでは学問的にも価値観的にも多く学んだと思います。学問的には今まで触れてこなかったLGBTQについて学ぶことができたため、自分の視野が広がったと思うので今後もっと多角的に物事を考えられると思います。また、アニメの授業やfilmの授業では日本のことを海外の視点から見たり海外の文化と比較ができたため、JCulPでの学びに活かしていきたいです。価値観的には自分の時間の使い方を見直すようになりました。UCLAで私が会った人はみんな意識がすごく高かったなと感じたので、自分も物事を計画立てて1日1日を効率的に使いたいと思います。
- ・ 現地で受けた授業では、早稲田にいる時よりも映像資料が積極的に活用されていた印象があるので、文献だけでなく様々なメディア媒体を幅広く研究対象として捉えていきたいと思った。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

(留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど)

- ・ なんでも締め切り前に早めにやっておくことが大事です。
- ・ 授業を精一杯やることも、いきたかった場所に沢山訪れるのもいいと思いますが、それよりもできるだけ沢山の人と交流することをお勧めします。それが留学において一番大切なことだと思います。
- ・ 留学では全てが新鮮でとても楽しいと思うので、思う存分楽しんでください！私はもう少し行動範囲を広げれば良かったなと思ったので、気になる場所や物事はせっかくの1ヶ月半なので積極的に取り組んでほしいです！足りないものはTargetなどで揃ったりするのですが物価が高いので気を付けてください。私の寮のベッドはブランケットがタオルみたいだったので、毛布か布団を持っていくことをおすすめします！最後に寮ではたくさんイベントが行われていてそこで友達を作ったのでぜひさんかしてみてください！
- ・ 自動販売機は小銭が読み込まれないまま返ってこないことも多いので、使わない方がいいと思います。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- ・ 私が取っている授業のほとんどが少人数だったため、discussion がメインでした。宿題やその場で行った work を通して話し合う場面がたくさんありました。私が履修した授業は 3 つあり、Academic Reading and Writing, Public Speaking, and American Culture through Film でした。特に Film の授業では Film の構成だけを学ぶのではなく、その Film の cultural background や Film に描かれている世界と実際の世界、社会のとの対比などを学べたので視野が広がりました。この授業にも discussion する機会がたくさんあり、他の人がどのようにその描写やコンセプトをとらえているのか意見交換できたのでとても充実したクラスであり印象に残っています。

留学生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- ・ 宿舎に関しては housing application を提出する時にいくつかのタイプの寮を希望することが可能です。また、気候は晴れの日が多かったです。UCLA の食堂も充実しています。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ Summer Session で学んだことを次の学期の授業に活かしたいです。学んだ内容だけではなく、エッセイの良い書き方なども再度習ったので次の学期の授業から活用したいです。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

（留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど）

- ・ 書類提出するものは学校によって違うので書類提出の詳細を読む必要があります。また、留学先の授業もたくさんの発見があり視野が広がります。"

留学生生活全般について

(宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など)

- ・ 雨はほとんど降らず、また夏でも過ごしやすい気温でした。留学生は全員寮に泊まるのですが、キッチンと同じフロアの生徒と共有でした。そのため、友人と一緒にご飯を作ったり楽しい時間を過ごすことができました。食事は自分で作るか近くの co-op という店で買うか、学食で買うかの選択肢がありました。co-op で売られているものは基本的に全て高かったのですが、安く食べ物を仕入れるためにはバスで約 20 分ほどの Brighton の街まで下りなければならず、立地は面倒でした。Sussex 大学の周辺はほとんど何もお店がなかったため、買い物をするには Brighton の街まで行かなければなりません。値段を気にしなければ、基本的に日用品は co-op で買えます。Brighton は若者に人気の街で、洋服などの買い物や綺麗なビーチを楽しめます。スリなどにも一度もあうこともなく、ロンドンなどの都市部に比べると治安も良かったです。留学生向けのイベント (Arundel への日帰り旅行、カラオケパーティ、Movie night など) が毎週沢山用意されていました。Sussex 大学は勉強をしに行く場所というよりは、夏休みを楽しく有意義に過ごせる場所という印象です。それでも日本人留学生はほぼおらず、友人とは英語で会話をしていたので、とても良い英語の勉強にもなりました。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ 私の専攻は心理学だったのですが、主に日本で起こった集団暴行を心理学の観点で分析しました。例えば、関東大震災朝鮮人虐殺事件はなぜ起きたのか、なぜ自警団は集団暴行に至ったのかなどを心理学の観点から分析しました。今まで心理学に全く興味はなかったのですが、日本で起きた歴史上の出来事を心理学の観点から見るのも面白いと感じ、今後もその観点を忘れずに日本の文化や歴史について研究したいです。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

(留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど)

- ・ 私は取りたい授業が Sussex 大学にあったので Sussex 大学に申し込んだのですが、ほとんどの授業がキャンセルになってしまい、私の取りたい授業もなくなってしまいました。私と同じように、取りたい授業がなく仕方なく心理学の授業をとる生徒がとても多くいました。このように、授業の内容に興味を持ったからといってその授業が実施されるとは限らないので気をつけてください。また、中心街からバスで 20 分ほど離れた田舎にあり、立地はそこまで良くないです。大学の周りには、学食、co-op(コンビニのようなもの)、Pub、カフェしかお店がありません。その 2 点が Sussex 大学に留学する上での問題点だと思います。しかし、留学生用イベントも多く、教授や大学のスタッフさん方も親切で留学生を受け入れる体制が整っているので良い大学だと思います。また、自然がとても綺麗で気温も丁度良く過ごしやすかったです。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- ・ 例年はインテンシブイングリッシュへの参加者の大半が中国からの学生だが、パンデミックの影響で今年はそのではないという話をインストラクターから聞いた。クラスは3つに分けられ、私のクラスは比較的出身の国に偏りがなかったが他のクラスでほぼ全員が韓国人、アジア人など偏りのあるクラスも見受けられた。
授業のレベルは比較的易しいと感じました。課題の量も多くなく、JCulP の生徒（普段課題が多く授業も重いため）であれば全く困らないと思います。
- ・ 初日に簡単なエッセイのテストと、スピーキングのテストがありそれに沿ってクラス分けされます。授業は必修が reading&writing と listening&speaking の2つで ABC のクラスに分けられました。プラスで elective class がいくつかの中から2つ選びます。
B クラスでしたが、楽しく授業に取り組む形でした。課題の量も程よく、アメリカの生活を満喫することができる時間が十分にありました。
- ・ JCulP の授業よりもレベルは低い。
- ・ 英語力を伸ばすプログラムであったため、授業内容は様々だった。短編小説を読むこともあれば、簡単な説明文を読む日も、クラスメイトとカードゲームをしながらお互いの性格や文化をより深く知る日もあった。授業レベルとしては、JCulP で求められているものよりは簡単で自由なものが多かった。課題は出るがその日中に終わらせられる量であり、内容も難しくなかった。クラスメイトはアジアの人よりもヨーロッパ圏から来た人のほうが多く、大体は年上であった。
- ・ クラスメイト構成は前回までのフィードバックで書いてあったように中国人が多い訳ではなく、ヨーロッパ国籍の生徒が多く、年齢層も大学生より高い方が多かったので、人間関係はとても充実していました。一方で、英語を学ぶためのコースだったので、今までアカデミックに文章を書いたことがない、といった人も多く、授業レベルは少し物足りなかったです。

留学生生活全般について

（宿舍・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- ・ 円安の影響でとても物価が高かったです。また、大学周辺で生活用品を安く買うのがとても難しかったので、現地で揃えればいいやと思っていたものも日本から持ってきておけばよかったと思うことが多々ありました。寮の部屋にエアコンはありません。私は小型の扇風機を持って行ったのですが非常に重宝しました。（大学のお店ではシーツも扇風機もハンガーもデスクライトもとても高いです。出来るだけ日本から持参することをお勧めします。）
- ・ クーラーが部屋にない為、コンパクトな扇風機を持参しました。また、窓を開けて過ごしていました。ただ、寮の前の道が車通りが多く暴走族のようなバイクも多く通る為比較的うるさかったです。治安はそれほど悪くなく、地区一帯が Yale の街のような感じでした。new heaven green という公園を超えるとホームレスの方が多く少し治安が悪い印象です。ベッドシーツがないので準備する必要があります。二トリのひんやりマットのような簡単に取り付けられるものでもいいかもしれません！あとサラッとかけられるタオルケットのようなものも1枚あると便利かもしれません。気候 部屋にクーラーがないため暑いですが、日本ほど湿気がない為、なんとか夜は越せます。食事 寮にダイニングがあり、3食食べられます。毎食スイーツやアイスもあるので、食べすぎだけは注意です…笑笑 ビュッフェ形式で美味しいです。また、寮の周りにもたくさんの美味しい飲食店がありました。部屋に冷蔵庫がない為、冷たい飲み物を飲みたい人は、ダイニングで氷をゲットしておくことをおすすめします！そのため、保冷水筒を持参するか購入するのいいと思います。交通 大学の周辺は、connecticut shuttle が無料でさまざまな所を走っているため、基本的には交通費はかかりません。（日本で言う都バスのようなものが無料なイメージ）ただ、もちろんバスだと様々な所を回るため時間が掛かってしまうので、その場合は Uber を使えばすぐに目的地に向かえます！バスの時間などは Google map を使うと時間も見ることができます。Wi-Fi 大学の敷地内ではしっかりと Wi-Fi がつながっています。ギガ節約のために、モバイルデータをオフにしてもいいと思います。
- ・ 大学の周りの治安はかなり悪いので注意が必要。現地でできた友達は一生物の！
- ・ 宿舍に冷房がないのはつらかった。涼しい日もあったが、冷房なしで寝るには暑すぎる日もあった。食事は悪くないが、同じようなメニューが続くこともあるので、機会があればなるべくクラスメイトなどと外に食べに行くことをお勧めする。治安はよいとは言えず、ホームレスの方もかなりいらっしやる町だった。しかし、明るいうちに複数人で行動する分には(慣れてくると)問題がないとわかった。大学の周辺では公共のバスも無料であったので、交通費がかさまないのでうれしかった。渡米中にコロナに罹患したが、その際のサポートデスクの方々のサポートはとても手厚く、罹患中に不安を感じることはほと

んどなかった。余暇は、周辺の「アメリカっぽい」食べ物、カフェなどを探索したり、古本屋さんに行って洋書を購入したり、Yale大学の図書館博物館を見て回ったり、Yaleで出会った友人と屋外でおやつを食べながら話したりして時間を過ごした。

- ・ 宿舎は基本的にボロい。至る所からアリが発生したり、網戸が壊れていて蛾が入ってきたり、ダニや蚊も多かった。気候は最初の方こそ過ごしやすいですが、暑くなってくるとクーラーがないので、少し寝苦しい。窓を開けようにも深夜に爆音でバイクや車が通るので難しい。交通はバスがタダなので助かりました。サポートデスクや保険に関しての連絡は一切していませんでした。余暇はモールにいたりでしたが、オンラインでの早稲田の履修が見つかった（時間がもったいなかった）ので、あまり単位で頑張らないようなスケジュールを組むといいと思います。

今後、Summer Sessionで学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ 大学卒業後の進路に関して選択肢が広がったと思います。アメリカでの生活での気づきやイエール大学の生徒の学びの姿勢に影響を受けたことは今後の自信の勉学に対する意識を高めたと思います。
- ・ ゆっくりと自分に向き合う時間をとることができるため、今後について改めて考えることができた。また、英語のミスを恐れず話すことのできる環境であったため、自信を持つことができた。（自分の英語力がどれくらいであるかという問題ではなく）
- ・ 英語力向上というよりは、自分磨きが出来たような気がします。
- ・ ここまで長く海外にいたことが初めてだったこともあり、カルチャーショックはかなりあった。自分の中の当たり前や常識があたりまえでないことを強く実感した。OSの人が九月からくる際にも違いを理由に遠ざけたりすることなく、むしろ自分の視野を広げられると生き生きとした心持で接していけたらいいと思う。
- ・ Summer sessionでは、外国人学生の志の高さに刺激を受けました。自分の興味のあることをひたすら突き詰めていく姿勢にとっても触発されたので、自分も自分の道を進む強さを持ち続けたいと思います。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

(留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど)

- ・ 英語で何か学問的なことを学ぶというより、イエール大学という洗練された場所で様々なバックグラウンドを持つ生徒と関わりながらアメリカで過ごす1ヶ月を経験すると言うところに価値があるプログラムだと思います。私は英語力向上というよりも、アメリカの文化や大学での過ごし方に対する気づきや学問・将来に関する新しい考えを得たり、また多様性の中に身を置くことによって自分のアイデンティティに対して考えを得るなど、経験から新しい考えや視点をもてたことが今回のプログラムでの学びだと思っています。
- ・ Yale summer session主催のイベントが沢山ありました。(ブロードウェイの観劇、遊園地、野球観戦など遠出から、Yaleの敷地内での小さなイベント、ゲームデーまで) 土日を使って、NYやボストンにプチ旅行に行くこともできるので、勉強以外にも沢山の本当にいい経験を積むことができると思います！
英語にどんな不安を持っていても、アメリカに行ってしまうと、喋らざるをえない。だから自然と英語がいくらかは喋れるようになります。
また、日本では、文法や諸々細かなことを間違えていないかな?と不安になりながら喋ることが多いと思います。しかし、アメリカではネイティブの方でも、優しく聞き入れてくれます。言葉に詰まっても、グラマーがおかしくても、発音がおかしくても聞き取ろうとしてくれるので自信を持って喋ってみてください！
- ・ ビザ等の準備など、早め早めで行動しよう！
- ・ 困ったとき(部屋の鍵をなくした、オートロック式なのに鍵を部屋の中において出てきてしまった等々)は現地の大学のサポートオフィスや周りの人をためらわずに頼ってください。どんな小さなことでも助けてくれますし、それが一番早い方法のことが多いです。一緒に来た日本人、同級生とずっと一緒にいると英語を使う機会が減ってしまうだけでなく、他の人と個別にかかわる機会が減ってしまうことがほとんどだと思います。前者の問題に対してはその人(たち)とも英語でしゃべることである程度解決されますが、後者の問題に関しては解決されません。はじめのうちは地方がないと思いますが、なるべく他の人とも個別でかわる機会をだんだんともてるようになるといいと思います。
また、私の場合は、あまり日本食は恋しくならず、カップラーメンなどはすべて現地の友達にあげました。持って行って損はないかもしれませんが、かさばるので、普段洋食を好んで食べる人や適応能力が高い人は持って行かなくてもいいと思います。
- ・ とても実用的なところでは、ポータブルの乾燥機を持って行ったことがとても便利でした。洗濯機も乾燥機もありますが、支払いでトラブルが起きたり、時間に縛りがあつたりということがないので、とても便利です。また、カード社会に慣れすぎるあまりに現金を持っていない！ということになりかねないので、小さなポシェットにでも、カード・スマホ・現金を持っているといいと思います。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- ・授業内容がかなり多いので、科目登録に注意しましょう。
- ・自分の場合、2科目を選んだが、週3,4時間の授業内容と勘違いしてはいけません。一週間ほぼ毎日6,7時間を使わなければ終わらないぐらいの内容量です。気をつけましょう。
- ・授業内容が全部学校のサイトにきれいに掲載しております。自分の場合、必需LIVE授業はありません。
- ・クラスメイトはほぼ本校の学生で、必須科目の型式で授業に参加してくるので、授業の内容はゆるみなくきびしいです。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・またチャンスがあったら、今度はこそ真面目に学びたい。授業内容はとても価値のあるすてきなものでした。

オンライン留学に参加して、よかった点、大変に感じた点、工夫した点などをご記入ください

（体調管理、履修時間帯、オンデマンド・リアルタイムの割合、その他）

- ・よくわからないが、気づいたとき、早稲田での選択科目を終えていないことにおどろいた。その両方を同時に進むと、やはり厳しいです。
- ・オンデマンドのみな授業型式なので、実際時差のずれはほぼありません。
- ・学校サイトはきれいさっぱり全ての必須情報を載せておりますのでメールなどもそこで直接できます。
- ・交流は便利です。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

（留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど）

- ・オンライン授業は思ったより大変です。心の準備を用意しましょう。

(オンライン) <Yale University / Summer Session>

オンライン留学に参加して、よかった点、大変に感じた点、工夫した点などをご記入ください。
(体調管理、履修時間帯、オンデマンド・リアルタイムの割合、その他)

- ・ 春学期の授業で夏も対面で行う授業をとっていたため、体調管理は難しかった。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について (授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など)

- ・ 17人ほどの少人数クラスで、日本人は自分を含めて3人だった。Ted talk を見たり、資料を踏まえた要約や議論を通して、多様な意見に触れることはとても刺激的だった。最後の個人プレゼンは、実際にアメリカの大学生が用いている考え方のプロセスを利用し、構成を考えていった。より深い内容になったので、大きな学びとなった。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ プレゼン準備のために利用したプロセスを今後の授業でも使っていきたい。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- UCL の一日あたりの授業時間は基本的には短いです。とる授業によって変わりますが（Medical 系の授業など）、おそらく JCulP 生の興味のある文系の科目は午前のみ/昼頃のみ/午後のみで終わります。どの時間帯になるかはランダムですが、午前が圧倒的に当たりと言われていました。午後の時間をロンドン観光や美術館・博物館巡り、観劇、小旅行などで有効に活用できるからです。幸運なことに私の取った English for Academic Purposes と Fairytales and Retellings はどちらも午後 1 時終了の午前みの授業だったので、ロンドンの主要なミュージアムはほとんど回ることができましたし、友人との交流の時間も多く取れたように感じます。留学の意味というのは、もちろん勉強も大事ですが、それ以上に現地でしかできないことをすることだと私は思っています。コロナ渦で留学した身としては特に。授業を受けるだけならオンラインでもできるので。せっかく現地に行くんだから、留学先選びの基準として授業時間の短さも考えてもらいたいと思っています。これから渡航するみなさんにはぜひいろいろな経験をしてほしいです。授業内容について少し書くと、TOEFL79 以上で入れる English for Academic Purposes は簡単でした。11 人のクラスメイトは全員国籍が違って、スロヴェニアやウクライナなどみんな違う英語圏外の国から来ていました。小人数なのでクラスですごく仲良くなって、クラスみんなで大英博物館に行ったり、私が International Lunch Party(それぞれの国の料理を作ったり買ったりして持ち寄ってみんなで食べる会)を主催したりしました。今でも連絡を取り合っています。授業でやっていたことは JCulP の ASE とほとんど変わりません。毎日の課題はほとんどありません。短い期間でプレゼンテーション 2 つと 1200words の Essay をつくるのが少しハードでしたが、それは夜やることにして日の出ている間はずっとロンドン周辺を探検していました。北はスコットランド、南はブライトン、東はドーバー、西はウェールズまで、授業後の時間で全然行けます！（さすがにスコットランドは週末を絡めましたが）。ロンドンの交通の便は最強です。イギリスに留学したいなら、どれだけ田舎の風景が魅力的でもロンドンを選ぶべきです。特に UCL は最強の駅・KingsCross/St.Pancras まで徒歩 10 分なのでおすすめです。列車のチケットはネットで事前予約することで半額以下で買えます！早ければ早いほど安いですが、Fairytales and Retellings については、TOEFL100 が minimum であるということでレベルは高いように感じました。授業を聞くことは JCulP で慣れているおかげで聞き取りやすいのですが、ディスカッション相手のクラスメイトが 9 割アメリカ人なのでスピード感についていくのが大変でした。課外活動はほとんどなく、ちいさな美術館に一度行くだけでした。ただ、ゲストスピーカーとして来てくださったプロの Storyteller の方のお話が大変興味深かったのが印象的でした。ふだんの授業内容もかなり深くておもしろかったです。本気で来ている学生ばかりだったので、事前にもっと勉強しておけばよかったと思いました。Essay は 2000words ですが頑張れば意外と何とかできます。毎日の予習としていくつか Reading が課されますが、課題が多すぎて他に何もできないという状況ではありませんでした。もともと興味があった童話について様々な資料を使って考察できたので興味深かったです。童話好きの友達ができたというのも大きかったと思います。日本にいてもなかなか出会えないので、世界中から集まってきた同じ興味を持っている学生と出会えたのはとても嬉しかったです。

留学生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- 寮は絶対 Astor College を選んでください。スイートルームじゃないほうがいいです。UCL には提携寮が 3 つあるのですが、他ふたつの寮に行っていた友人たちは口をそろえて Astor を選べばよかったと言っていました。理由として大きいのは滞在している生徒の人数です。新しい寮だからか大多数の生徒が Astor に滞在していて、そのおかげで友達ができやすかったです。帰りが遅い時も必ず誰かが寮まで一緒に帰ってくれるので危険を感じることはありませんでした。新しいのもものすごく清潔ですし、部屋も広いです。スイートルームにすると部屋にトイレとシャワーが付くのですが、1 週間に一度しか清掃に入ってくれないので、毎日清掃に入る共同シャワー・トイレのほうがおすすめです。人と共同ってストレスなんじゃないかと心配していましたが、案外全くそんなことはありませんでした。キッチンも共同ですが割と生活習慣がバラバラなので人と被ることはそこまで多くありません。被ったとしても一人か二人ですし、被ったら友達になれるのでそれはそれでいいです。私が仲良くなった料理上手のシンガポール人の子は被ることが多かったので料理をシェアしたりしました。寮で友達を作るうえで大切なのは挨拶！すれちがったら必ず挨拶をしましょう。同じエレベーターに乗り合わせたら雑談をしましょう。みんな当然のようにこれらのことをしているのですごく慣れると思いますが、最初にできる友達は寮の子なので出会いは大事にしましょう！私が滞在していた時は寮に 3 人日本人がいて、本当に体調が悪くて困ったときなどはその子たちに日本のお薬をもらったりしました。韓国人の友達はシートマスクをくれました。スロベニア人の友達には sim カードを取り出すツールを夜中 1 時に借りました。いつでも人に頼れる環境、それが寮！寮選びは慎重に。絶対に Astor college を選んでください。ロンドンの気候は

本当によくわかりません。週ごとに 20 度くらい変わったりもするので、いろんな気温に対応できる服を持っていったほうがいいと思います。お洒落とかはそんなにみんな気にしてないので、同じ服ばかり来ていても大丈夫なので、とにかくノースリーブから長袖スウェットまでいろいろ持ってきたほうがいいです。朝と日中の気温変化が大きいので、涼しい服を着てあたたかい羽織るものを持ち歩くのがベストかと思います。イギリスのほとんどの建物にはエアコンがありません。ヒートウェーブが来たときは寮がサウナ状態だったのでみんなで 24 時間空いている Student Centre(カフェのような自習室のような UCL の建物)に避難していました。あと日本人が気になるのは感想だと思います。小さな加湿器を持っていくといいと思います。私は現地で買いました。Argos というお店が家電は安いです。食事は、おいしいです！本当です。イギリスは食事がまずいと言われていますが、びっくりするほどおいしいです。各国料理のお店が町中であって楽しいです。仲良くなった友達の出身国の料理を出しているお店と一緒にいたり、逆に一緒にお寿司を食べに行ったり…イギリスでの食事にはいい思い出しかありません。日本食のレトルトをたくさん持って行ったのですがほとんど使わず、友達にプレゼントして帰ってきました。でも外食は驚くほど高いです。反して食材は激安なのでできる時は自炊するのがいいと思います。日本の 300 円ショップで売っている一人用電子レンジ炊飯器がおすすめです。蒸し野菜などもそれひとつで作れるので私はフライパンも鍋も持っていきませんでした。ただ適当な野菜やチキンをそこにに入れて醤油と塩をかけてレンジで 2 分ほど加熱すればおいしくて栄養のあるものができます。とはいえ友達にたくさん食事に誘われちゃうので結局外食でお金が飛んでいきます。覚悟しましょう。お金や英語力の心配をして誘いを断っていたら留学費の損です。英語力が一番伸びる瞬間はそこです。多少無理をしても行きましょう。友達の友達と仲良くなれたりして人脈も広がります。人脈が広がると大学のイベントももっと楽しめます。留学先で一番するべきなのが人との交流であるのは間違いないです。治安はアメリカより良さそうです(アメリカに留学した JCulP 生の話を聞く限り)。もちろん警戒はしていましたが！アジア人差別等も感じませんでした。Astor college はロンドンの中心にあって、どこへでもアクセスがめっちゃめっちゃ良いです。大抵の場所に徒歩か電車で 20 分で行けます。感動しました。おすすめの交通機関はバスと徒歩です。景色が見えるので！バスの二階席の一番前は観光客の多いエリアでなければ意外と空いています。徒歩も、綺麗な建物やおしゃれなお店を発見できて楽しいです。私は一日平均 10km 以上歩いていて、靴がボロボロになりました。ちなみに電車もバスも当然のように遅れます。ですが日本と違うのは、時間に遅れてもいい雰囲気があるところです。友達と待ち合わせてもだいたい遅れてくるし、ショーも数分遅れで始まります。そのため、交通機関の遅れにストレスを感じたことは一度もありませんでした。むしろその点は日本よりも居心地がよく感じました。乗換案内はアプリもありますが Google マップで調べるのが主流です。WiFi がいたるところに飛んでいるので、携帯は 3GB 契約で大丈夫です。主に Google マップでギガを消費するのでインスタは見過ぎないように注意したほうがいいですが、大抵のお店では WiFi のパスワードを聞くと教えてくれます。話しかけやすい雰囲気なので躊躇せず聞きましょう。余暇の過ごし方ですが、UCL は放課後にほとんど毎日大学主催のイベントがあり、学生同士の交流ができる場になっているのですべて参加していました。一緒に行く友達がいないくても絶対に参加するべき。出席すれば向こうで即友達ができるので！クイズ大会とか、ボール遊びとか、楽しいアクティビティが盛りだくさんです。UCL は周辺のほかの大学と比べても圧倒的にこのような交流の機会が多いです！留学で英語力を伸ばす最大のキーは友達とたくさん話すことだと思っているので、絶対にこのチャンスを活かしましょう！あと、余暇の過ごし方としてミュージカルを見ることを強く勧めます。私はロンドンに来て観劇にハマり、8本の舞台を見に行きました。悪い席であれば安いチケットもあります。UCL があるのはウエストエンドという劇場の集中したエリアのそばなので見に行きやすいですよ！初めてのの方は、まずライオンキングを見て、それからオペラ座の怪人を観てください。この流れはマストです。ライオンキングは歌が多くて楽しくて、ミュージカルというもののつかみにはぴったりです。オペラ座の怪人は私が今まで見てきた部隊の中で圧倒的に一番良かったです。名作がなぜ名作なのかがよくわかります。死ぬまでに一度は必ず見るべき作品です。ちなみに観劇のコツとしては話の内容をあらかじめネットで見て予習しておくことです。特にオペラは英語話者が聞いてもよくわからないそうなので…。オペラ座の怪人で楽しむべきはその演出です。目を見張ること間違いなし。私の友人も口をそろえてオペラ座の怪人がナンバーワンだと言っています。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- 英語ができて教養がなければ会話ができないということ学びました。外国人の友人はみんな、たわいのない日常会話よりも政治や歴史の話をして。もはやディスカッションです(特にフランス人はディスカッションが好きな印象)。言っていることはわかるのに、言えることが見つからないと感じることが何度もありました。みんな日常的に政治のニュースなどを関心を持って見ているようで、安倍元総理の銃撃事件の件も私は外国人の友達から先に知らされました。自分が本当に恥ずかしくなりました。日本文化に興味があるから文化についてだけ知識を蓄えるのではなくて、これからはもっと広く深く教養をつけたいと感じました。もちろんそれを伝える英語力も。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

(留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど)

- ・人生で一番の夏にするために！！私は留学先をリストから選ばず個人申請することを推奨しています。そのほうが留学に対するモチベーションを高く持てると感じるからです。苦労なく留学先の申請を終えた子と比べて、限られた時間やありがたい学習環境を大切に使おうという意識が持てて、満足度は絶対に高いです。私が行った UCL のサマースクールは本来 Home University で 1 年以上学んだうえでしか参加できないのですが、私はメールを送って、教授からの推薦状を送付するという条件で受け入れてもらいました。それくらいの苦労が、留学の満足度を上げるのには必要なのではないかと思います。私は JCulP 生の中で一番 SummerSession に満足している自信があります。自分がそこで学べたことに誇りを持っています。みなさんも、UCL でなくても結構ですが、自分の理想の行き先を見つけてください！それが UCL であればなお嬉しいです。どれくらいのレベルかの参考に、私の情報を書いておきます。

公立高校出身、純ジャパ

英検 1 級、TOEFL100(Reading29, Listening27, Speaking20, Writing24)

GPA3.33

ちなみに UCL の module には minimum で TOEFL100 を要求されるものがありますが、100 なくても Session1 で English for Academic Purposes を取れば受講を認めてくれます。

Summer Session を終えての感想をご記入ください

授業について（授業内容・授業レベル・クラスメイト構成・課外活動など）

- ・ 授業内容が本当に単純な文法が多かったと思います。普段自分がどれほど grammarly に頼っているかを再認識させられました。the と a の違い、コロケーションなど、なんとなく感覚でわかっている気になっているけども、正確に説明できないところを突かれて、「うっ」と感じる機会が多かったです。授業レベルは、簡単な部類に入ると思います。レベルは 1 から 6 まで分かれており(7 はそのまま大学に進学する人だけが受けられるコース)、レベル 6 でも、中学校 3 年生だとかそんなレベルかなと言った感じです。もちろん、多くの学びがあるため一概にはいえません。スピーキングは、語学学校に通っている生徒は、実際にオーストラリアに住んでいるため、かなり高いレベルだと感じました。クラスメイト構成は、コロナ禍の途中ということもあり、だいぶ中国からの留学生が少ないなと言ったイメージでした。語学学校の先生は、コロナ前は中国からの留学生ばかりだったと話していました。しかし、今回は、ペルーやブラジル、スロバキア、モンゴル、ベトナムなど、本当に様々な人種の生徒が在籍していました。僕は Nathan campus にいたのですが、ゴールドコーストの方は、15 人のクラスの中で、6-8 人が日本人と言った構成だったようです。僕は 6 月の下旬からのコースでしたが、8 月初めからのコースは Nathan campus にも多くの日本人学生がいたようです。課外活動は、活発というわけではありませんが、一応あります。一回、ゴールドコーストにある Q1 という東京スカイツリー的なものに登れるという活動があり、参加することで、ゴールドコーストにいる、他の Griffith University の語学学校の生徒に会う機会があり、本当に楽しかったです。

留学生活全般について

（宿舎・気候・食事・治安・交通・携帯電話・Wi-fi・保険・サポートデスクの活用・余暇の過ごし方など）

- ・ 泊まったところは、友人の父の家だったため、運が良かったかなと思います。学生寮に住んだ友人がいるのですが、語学学校は、Griffith University とは日程が違います。なので、語学学校が始まってから、2 週間後に Griffith University が始まり、そのタイミングで学生寮を開くと言った感じになります。なので、友人は最初の二週間は他の場所で急遽仮住まい、からの学生寮と言った形になり、引越に苦労していました。加えて、Nathan Campus は山にあるので、交通の便が悪いです。食費は基本高く、交通はちょっと悪いです。バスが基本ちょっと遅れるので。携帯、wifi は問題なし。休日は、ブリスベンはそこそこ遊べるけど、ゴールドコーストの方がもっと遊べるんだろうなと感じました。

今後、Summer Session で学んだことをどのように活かしていくかについて

- ・ 英語に触れ続けることの大切さを改めて知ることができた。加えて、自身も英語の学習者としてやる機会が多かったのだと感じていた。正直、文法も一通り勉強し、高校は英語で学ぶ環境にあったので、語学力の成長なんてあんまりないだろうと、鷹を括っていた。しかし、リスニング力に関しては明らかに成長したなと感じた。スピーキングは、すごく伸びたと感じられなかったが(授業があまり発言するタイプではなかったのが大きいかも。プログラムによってはかなり伸びてもおかしくないと思う)、それでも、まだまだ自分は英語学習者として伸び代があることを自覚した。だから、今後の文法の勉強や英語のニュースを聞いてみようというモチベーションにつながった。

次年度の学生に伝えたいことをご記入ください

（留学先でできたこと、学んだこと、気を付けてほしいこと、準備しておくことよいことなど）

- ・ 風邪薬や、解熱剤は持って行ってよかったなと思いました。普通に風邪をひきました。なんなら、コロナもかかって一週間帰れませんでした。滞在に融通が効く、ホームステイがいいのかなとも思いました。